「名古屋城天守閣の木造復元を考える」市民討論会レジメ

5月27日　名東区役所講堂　　山口由夫

1．はじめに（自己紹介）

2．名古屋城はどんなお城か…裏面「名古屋城鳥瞰図」参照

自然災害及び人的要因による名古屋城内（本丸・西之丸に限定）施設の変化

自然災害及び人的要因	影響を受けた名古屋城内施設
濃尾地震 1891年（明治24年）	西南隅櫓（復元）榎多門（正門）、本丸・西之丸多聞櫓
宮内省移管（名古屋離宮）	榎多門取り壊し（旧江戸城蓮池門移築）、西之丸鵜の首
戦災焼失	天守閣、本丸御殿、東北隅櫓、本丸表一之門・二之門

3．天守閣木造復元について

（1）竹中工務店の「技術提案書」の記述をどう読むか？

『技術提案書』の冒頭には、**「超短工期での史実に忠実な木造天守閣の実現に対する認識」**として、「私共は、名古屋城の完全に史実に忠実な復元は過去の実績等に調査を踏まえて**10～20年はかかると判断しています。**指定された竣工日まで残された期間は4年と4ヶ月（52か月）であり、史実に忠実な復元を実現するには不可能といえるほど非常に厳しいものと認識しています。さらに、**史実に基づく仕様や許認可対応による付加要素等の不確定な部分が多いと認識している。**」

（2）【2万人アンケート説明資料】と河村市長の四つのまやかしについて

①　「寸分違わぬ復元が可能・・・・」には、大いなる疑問？

◉　材料面からの違い

・江戸時代天守閣作事に使用された木材（出典：「名古屋城検定」『金城温古録』による）

欅（けやき）角物	檜（ひのき）角物（木曽檜）	松角物	合　計
408本	2,085本	9,796本	12,289本

・木材調達（竹中工務店『技術提案書』20頁より）

本事業では、短期間に膨大な量の木材の調達することが大きな課題の一つとなっています。また、天守の主要部分（柱・梁）の木材は、大径材・長尺材で構成されており、国内事情を考慮するとその流通量は限られています。この状況の中、調達可能な木材を駆使し、事業費を算出しました。

1　調達可能な木材の設定

・市場価格のレベルに応じたグレードの設定と産地の多様化（外国産含む）を許容することで、調達可能な木材の採用範囲の拡大を図りました。

・主要な柱・梁材は、檜材（国内産）を使用します。

・梁丸太材は松材（国内産）を使用します。

・現時点での弊社の調査によると、調達が困難な梁材が若干あります。このため、**大径長尺材の一部で外国産材（米桧葉）で見込んでいます。また、土台は赤味材とする必要があるため、米桧葉の大径材を見込んでいます。**

◉ 消防法・バリアフリー法への対応から生じる違い
◉ 基礎のケーソンをどう扱うによる違い

② 耐震改修しても**概ね40年**⇒「**いずれかの時期には名古屋城を建て替える必要**があります。」というまやかし

◉ 平成22年9月「名古屋城天守耐震天守閣対策調査委託（構造体劣化調査委託）
※太字・下線部分は、協同設計舎建築事務所　一級建築士滝井幹夫氏の見解

・コンクリートの圧縮強度試験結果…**設計上必要な圧縮強度を保っている。**
大天守閣の構造強度22.9N/㎟＞設計基準強度・14.7N/㎟
小天守閣の構造強度16.0N/㎟＞設計基準強度・14.7N/㎟

・コンクリート中性化深さ試験…**特定の箇所を除くと中性化の進行は少ない。**
大天守閣は、コア8本の内7本では劣化度なし、小天守閣も4本の内

・鉄筋腐食度調査結果…**平均して錆の進行が一定見られるが耐久性・耐用年数を著しく損なうものではない。**
大天守閣・小天守閣共に各3か所、計6か所で行われ、鉄筋かぶり厚さ不足の箇所があることと、錆びグレードのⅰ～ⅳの中、全てがⅱを示していた。

・構造体劣化対策の提案・・表面被覆法工法・断面被覆工法・再アルカリ工法

◉ 平成23年2月28日「耐震診断概要書」物件名　名古屋城大天守閣
平成9年に実施した耐震診断に対して、診断諸基準の改定があったため、再診断及び補強計画の見直しを行い、補修実施設計に向けての詳細検討を行うもの。

・耐震診断結果…耐力壁不在や剛性率が規定値から大きく外れている等、耐震性能が現行基準を大きく下回っていると指摘している。

・補強計画…梁・耐力壁・一部柱の各種補強と耐力壁増設により十分な耐震性能を確保することができる。と述べている。

これらの調査結果等を受けて「特別史跡名古屋城跡全体整備計画」では、「天守閣の耐震改修整備を行う。これに併せて天守閣内の展示内容の検討を行う。」と記している。

③ 入場者数の天文学的楽観的な数値…収支計画上、入場料収入だけでまかなうようにするためのつじつまあわせの数値？⇒達成出来なければ税金投入（明らかになるのは、河村市長には責任が取れない時代の話）

※ 出典「名古屋城天守閣の整備」【2万人アンケート説明資料】

年　度	入場者数	増加要因	減少要因
H27（2015）	174		
H28（2016）	180（197）	閉鎖に伴う駆け込み需要 本丸御殿第2期公開	天守閣閉鎖
H29（2017）	90（ 98）		
H30（2018）	160(174)	天守閣木造復元見学施設完成 金シャチ横丁第1期開業 本丸御殿全面公開	天守閣閉鎖中

H31（2019）	160(174)	展示収蔵施設完成	
H32（2020）	384（418）	木造天守閣竣工	
H33（2021）	446（485）		ブーム縮小
H34（2022）	401（437）		
H35（2023）	360（393）		
36～81（46年間）	360（393）		
H32からH81末までの合計	18,151（19,811）万人		

（　　）内の数字は入場者数の最大見込みの数

※ 上の表の入場者があった場合…1 万人を超える入場者の観覧制限、整理についての対応を現実の問題として考えると⇒天守閣内の照明・空調、構造上の問題

※ （姫路城の場合⇒1 日 15,000 人上限で整理券配布、入手 1 時間、入城 1 時間）

④ オリンピックに間に合わせるための無理なスケジュール

2016 年 6 月　6 月市会　基本設計（調査）予算等可決

7 月～9 月　基本設計　⇒10 月　文化庁文化財審議会【全体計画の許可】

9 月　文化庁復元検討委員会の審議（2017 年 3 月・7 月にも開催）

10 月～2017 年 10 月　実施設計…文化庁文化財審議会【詳細部分の許可】

11 月 11 月市会　現天守閣解体工事予算

2017 年 2 月　2 月市会　現天守閣解体工事契約

2017 年 6 月中旬～12 月　現天守閣解体工事実施

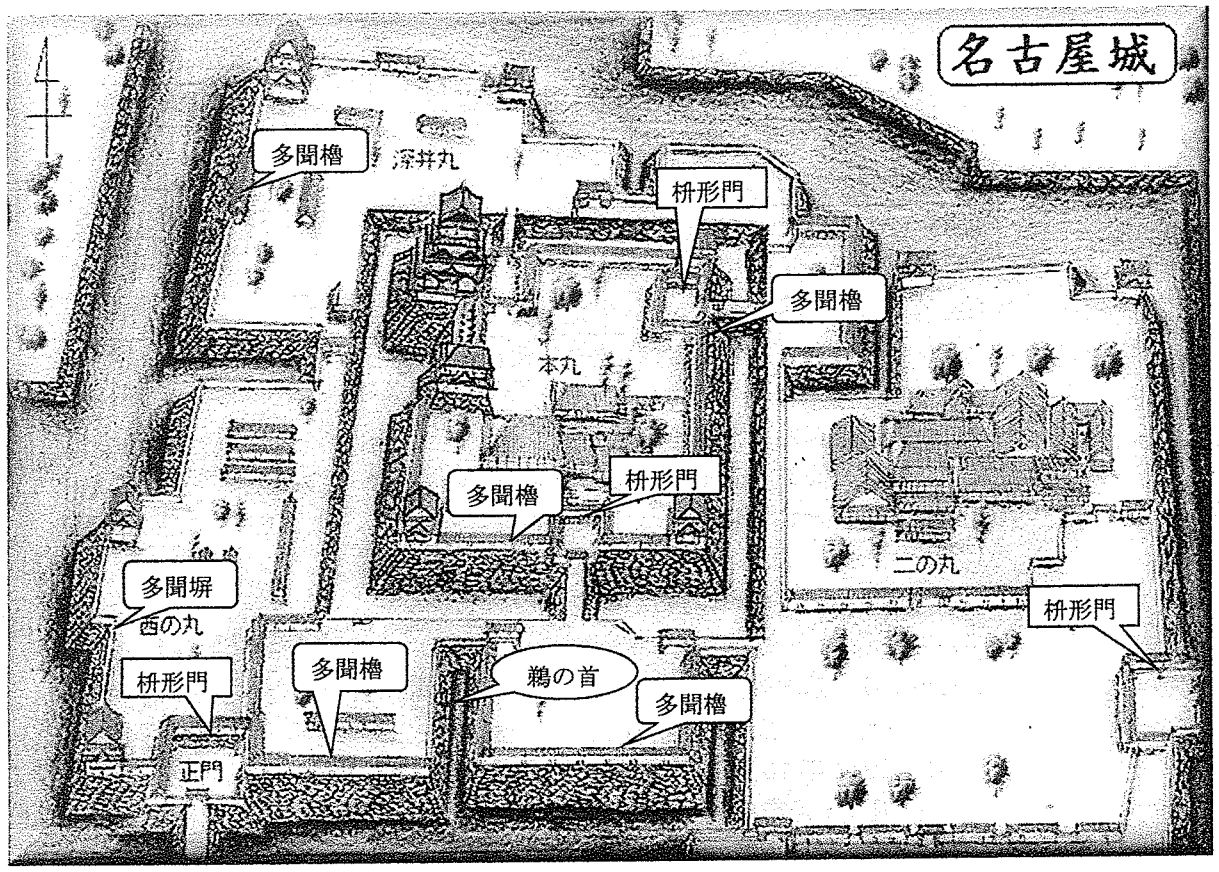
4．　結論

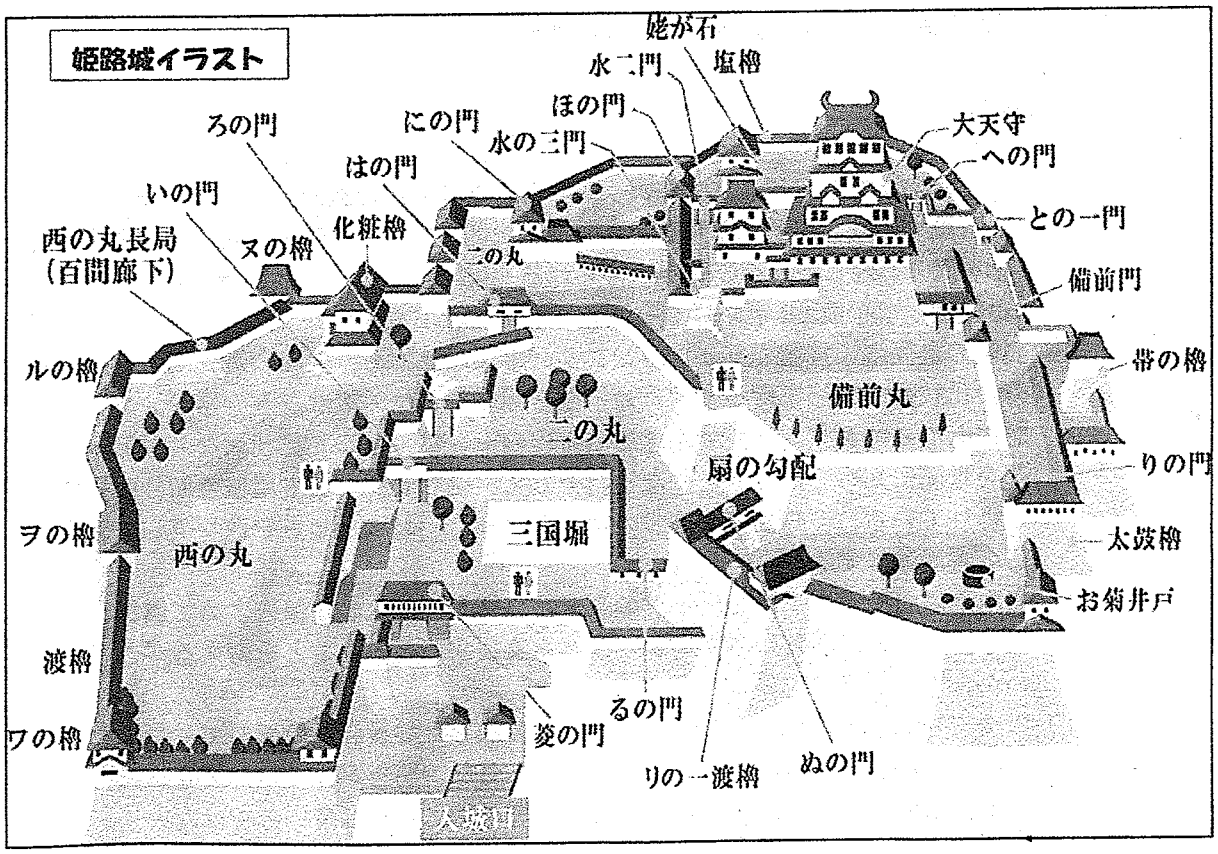
□ 現在の鉄骨・鉄筋コンクリート製の天守閣は、「二度と戦争などの惨禍に合わない、燃えない天守閣を！」という、再建当時の市民の願いがこもった貴重な市民の財産であり、戦後復興期に造られた歴史的・文化的建築物⇒可能な限り長寿命化を図り、残していく姿勢が求められる。（参考：昭和 35 年建造　名古屋大学豊田講堂　　平成 23 年 7 月 2 日国登録有形文化財登録）

□ 当時の最先端の技術であったコンクリート製の建物を、現在の最先端の耐震・長寿命化技術で改修を行って、延命措置を図ることは、アセットマネジメントの思想にも沿っており、技術で生きる名古屋のシンボルとして、壮大な名古屋城天守閣を世間に知らしめることになる。そして、合わせて「名古屋城整備計画」で予定されている、多聞櫓等の施設の復元を行って、お城らしさを取り戻して魅力ある名古屋城にする。

□ 熊本地震の被害を受けて、木材の調達、技術者・職人の確保を含めて震災復興事業を阻害せず、さらに名古屋から復興を支援するということを考えるべきではないか。

□ 木造天守閣については、各種の専門家が参加した委員会を設置して、材料の調達も含めて現実的に可能な方法を検討し、十分な時間をかけて市民的な議論行った上で、市民の多くが木造復元を望めば、その時に行えば良いのではないか。


名古屋城
多聞櫓
深井丸
枡形門
多聞櫓
本丸
多聞櫓
枡形門
二の丸
多聞塀
西の丸
枡形門
枡形門
多聞櫓
鵜の首
多聞櫓
正門


姫路城イラスト
姫が石
水二門
塩櫓
ほの門
ろの門
にの門
水の三門
大天守
への門
はの門
いの門
化粧櫓
とのの一門
西の丸長局
(百間廊下)
ヌの櫓
二の丸
備前門
ルの櫓
帯の櫓
備前丸
二の丸
扇の勾配
りの門
ヲの櫓
三国堀
太鼓櫓
西の丸
お菊井戸
渡櫓
るの門
ワの櫓
菱の門
りの一渡櫓
ぬの門
入城口

市民討論集会
「名古屋城天守閣の木造復元を考える」

名東区選出
市会議員の意見

５０音順

小林祥子さん　＜意見　１＞
さいとう愛子さん　＜意見　２＞
丹羽ひろしさん　＜意見　３＞
ひび健太郎さん　＜意見　４＞

浅井康正さん　意見の提出はありません

小林祥子さん　　＜意見　1＞

高田 勝三 先生

ご無沙汰しております。
お元気でいらっしゃいますか？
今回、名古屋城天守閣の木造復元について、意見を送ってほしいとの連絡をいただきました。

木造復元化につきましては、これまでの議会での議論や、先日行われた報告会や、2万人アンケートによる市民の皆様の御意見を十分にふまえて、市当局の提案に対して、真摯に議論に臨んでまいりたいと考えております。

小林 祥子

さいとう愛子さん　＜意見　２＞

天守閣木造化について

さいとう　愛子

現在の天守閣を耐震改修し長寿命化して、その間に、じっくり市民の意見や専門家の意見など聞きくべきである。20年の東京オリンピックに向けて急いで木造するのではなく、「名古屋城跡全体整備計画」に基づいて城跡全体の整備を行う。化

今の提案は、入場者数、入場料収入、資金の確保、資材の調達など、20年7月完成に合わせた計画であり、工期が「不可能に近い」（竹中工務店）ほど短いので少しの手違いも許されず、工期優先となる可能性がある。400億円といっていた事業費が505億円とふくらみ、税金は使わないとするが、裏付けは希薄。入場者数は、完成直後はともかく長期に今の２倍以上に増えるとは考えにくい。もし仮に実際入場したら、城内はすし詰め状態になり、観光どころではないし、危険にもなるのでは。また、大地震が、何度も襲うということもあらためて想定すべきと思う。コンクリートの耐用年数も、劣化対策を行えば、延命の可能性が開けてくると専門家の意見も聞いている。

（４１０文字）

丹羽ひろしさん　＜意見　3＞

平成28年5月23日
名古屋市会議員　丹羽ひろし

昨年から名古屋城天守閣木造復元を4年後の東京オリンピック開催に合わせるため、新たな契約制度で入札を行うなど、河村市長の前のめりな姿勢に疑問を抱かざるを得えません。
従って2万人アンケートの結果次第では、契約そのものを見直さなければならない事も考えられます。「尾張名古屋は城でもつ」と言われるように名古屋城天守閣は名古屋のシンボルと言えます。
しかし、名古屋城は多聞櫓や隅櫓および庭園など天守閣だけでなく、名古屋城全体を将来に渡り整備しなければならない観光資源と考えます。天守閣の木造復元だけが整備ではないことも市民の皆様にご理解して頂きたいと思います。
また、熊本地震による熊本城の被災状況を考えると、河村市長は、名古屋城天守閣木造再建を四年後の東京オリンピックに間に合わせようとしていますが、名古屋城天守閣が着工すれば、木材や職人が名古屋に集中するため、熊本城の再建に支障が出ると考えられます。震災復興のシンボルとして熊本城の再建を優先すべきと考えるのは私だけではないと考えます！

※以下は私が独自にアンケート調査した結果です。（参考資料）
今回のアンケート調査は、私の事務所の名簿から無作為に抽出し、無記名で回答して頂きました。
◎アンケート用紙分：1300枚に対し226件の回答（回答率17.38%）
・東京オリンピックに合わせて名古屋城天守閣木造再建を目指していることを知っているか？
知っている：182人（80.5%）
知らない：41人（18.14%）
無回答：3人（1.33%）
・300億円から500億円の巨費を投じ天守閣木造再建についての賛否
賛成：26人（11.5%）
反対：160人（70.8%）
分からない：40人（17.7%）

◎往復はがき分：400通に対し80通の回答（返信率20%）
・東京オリンピックに合わせて名古屋城天守閣木造再建を目指していることを知っているか？
知っている：68人
知らない：11人
無回答：1人
・300億円から500億円の巨費を投じ天守閣木造再建についての賛否
賛成：8人（10%）
反対：65人（81.25%）
分からない：7人（8.75%）

ひび健太郎さん　＜意見　４＞

本日は参加できず、誠に申しわけ有りません。
天守閣復元につきましては、いくつかの判断の基準があるものと考えています。現時点で最終判断は下していませんが、考えるところを申し述べさせていただきます。

前向きに捉えた場合の名古屋城木造復元の利点
1.耐震工事を行う必要があるため、そのままのコンクリート城郭で５０年延命するか、木造建築でおよそ400年耐用のものを建設するかの選択であれば、価値を考えても木造復元の選択はあり得る。

2.歴史的価値の視点で、名古屋城は他の城郭が復元のための図面をほとんど保有していないのに対し、全国では珍しく忠実に復元できる図面を保有していること。さらに、耐震を行った後に５０年後再びコンクリートで再建するという選択肢を選択しようにも、現時点の国の方針では文化庁が木造復元以外の方法での再建許可を出さない可能性が高いこと。

3.経済効果の視点で、木造の天守閣が復元されることにより、名古屋経済にどれほどの恩恵をもたらすのかの検証が必要。４００億円の再建費用をかけても、例えば年間１００億以上の付加経済効果を生むことができれば、長い視野で見れば投資的価値があるのではないかという視点。河村氏のひたすら急いで用意した推測の波及効果の数字ではなく、その試算をきちんと行うことが重要。

4.後世への歴史的価値という視点で、忠実復元ができたとして、例えば長い時間、１００年経過した後、現在復元中の本丸御殿とあわせて、重要文化財、国宝、世界遺産に成り得る価値を生み出す可能があること。そうなれば、経済波及効果という面で、多大なる資産を後世に残すことができる可能性があること。

他にも論点はありますが、主にこれらについては、否定的側面だけではないと捉えています。しかし多額の税金投入が必要なことから、時間をかけてしっかり検証して判断すべきことだと考えます。

一方で現計画に対して考えること。

1つに、河村氏の2020年オリンピックまでに復元するという計画は拙速に過ぎるのではないか。河村氏が自分の勇退の花道にという気持ちで急がせているのであれば、言語道断です。

2つに、工期に拘りすぎるが故に、天守閣を先に復元工事をして、石垣を後回しにする現在の工程計画には反対。物事には順序がありますから、河村市長の私物ではなく、後世の市民の財産となる名古屋城復元をするならば、適切な時間とお金をかけて、丁寧な計画で石垣をきちんと組み直してから天守閣の復元を行うべきです。実際に清水建設は石垣をきちんと積み直してから復元工事を行いたいがその場合、工期が間に合わない為、入札を辞退すると表明しています。

3つには、熊本地震で熊本城の様子をご覧になったと思いますが、同じような被害とならないようにするためにも、まさに戦災を免れて健在の最も価値のある西南隅櫓、石垣をきちんと守り、地震にも耐え得る修復をすることが優先すべき事です。

その上でこの名古屋城の木造復元の価値とそのやり方について市民の理解を深め、名古屋に生まれ、育った私たちの魂のこもった名古屋城の復元につながるようにしなければなりません。

名古屋市会議員　ひび健太郎